豊中市立野畑小学校「学校だより」

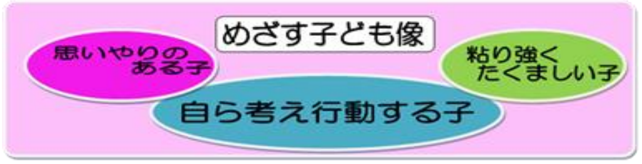
野畑花だより NO.16

令和５年（２０２３年）１月３１日 発行・野畑花だよりは、野畑小学校のホームページでもご覧いただけます。http://www.toyonaka-osa.ed.jp/cms/nobatake/

人権尊重を基盤とし、創造性豊かで積極的に行動する子どもの育成

めざす学校像

互いに認め合い、高め合う学校
みんなが安心できる居心地のいい学校
開かれた学校（学校・家庭・地域がつながりあうことを大切にする学校）



いつもこころに ⓝⓑⓣⓚ　のびのび 野畑 合言葉　バリアフリーで 笑顔がいっぱい　体験 楽しい 学びたい　計画立てて 相談 確認

学校は一面銀世界になりました

25 日の朝、10 年に一度といわれる大寒波で、学校は一面銀世界になりました。子どもたちは来るまでの間、雪を集めながら嬉しそうに登校してきて「先生見てみて！雪のお団子できたよ」としっかりと固められた雪の塊を見せてくれました。朝時間や１時間目は真っ白になった運動場に駆け出していって雪遊びを楽しんでいました。そのあと３年生の授業を見に行くとちょうど漢字で「銀世界」をやっていました。「何で銀世界なん？」と不思議そうに考えていましたが、「あ～きらきらして光っているからかあ」と納得。担任の先生が早速辞書で調べて「雪が降り積もって、あたり一面、白一色になった景色」のことだと教えてくれました。

「白一色なのに、どうして『銀世界』なのか？」と調べてみると「銀は「白金」のことで銀色（しろがねいろ）「銀のように光る白色」を意味するのだそうです。３年生が考えていた通りでした。大人にとっては大変な日（私も通勤２時間半かかりました）でしたが、子どもたちにとってはいい経験になった一日でした。

水曜日ほどではありませんが、連日寒い日が続いています。市内ではインフルエンザによる学級休業が相次いで出ています。本校でも少しずつインフルエンザＡ型による欠席が増えています。十分な栄養や睡眠、規則正しい生活などで抵抗力をつけ、手洗いや換気、加湿等の感染対策を行って参ります。

なわとび大会

28 日（土）に健全育成会の方が中心となって開催された「なわとび大会」がありました。低学年が中心でしたが 30 名以上の参加があり、Ｉ 年から３ 年は自由とびでどれだけとび続けられるか、そして二重跳びや片足跳びエックス跳び、はやぶさなど技でも競い合いました。優勝、準優勝の人は職員室前に掲示されています。参加者は寒い体育館の中でいい汗をかいていました。

また、３ 年から ６ 年生は各クラス豊中縄跳び大会に挑戦中です。3 分間でどれだけとべるか（3 年生は２チームに分けＩ分半ずつの合計回数）を競います。クラス全員で気持ちを合わせて記録を更新していきましょう。

	優勝（ゆうしょう）	準優勝（じゅんゆうしょう）
自由とび1年生	1-3 1分50秒 髙橋 凛桜	1-1 53秒 松田 文花
自由とび2年生	2-2 2分13秒 宮本 紗彩	2-3 2分05秒 大橋 陽
自由とび3年生	3-1 3分08秒 國分 隆太郎	3-1 2分07秒 中川 結惟
連続二重とび	5-4 108回 村田 力哉	4-2 64回 西口 夏帆
片足とび	5-4 269回 村田 力哉	5-2 267回 山内 幸音
エックスとび	5-4 103回 村田 力哉	4-2 100回 西口 夏帆
はやぶさ	4-2 17回 西口 夏帆	5-4 12回 村田 力哉

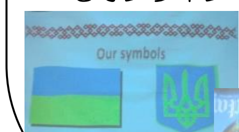
<u>ウクライナ交流会～オルガさんから話を聞きました。</u>

豊中市立小学校外国語体験活動の一環として、ウクライナから避難されてきた方に、自国の文化や生活について紹介していただくこととなり、２４日に体育館で３・４年生と５・６年生に分かれて話を聞きました。『一般社団法人学びに SPARK を』からオルガさんと通訳の白河さんが来られました。まずはウクライナと日本のものと比べてスライドで教えてもらいました。

日　本	みそ汁	おだんご	着物	お寺神社	さくら
ウクライナ	ボルシチ	はちみつで作ったおやつ	ヴィシュヴァンカ	教会	ひまわり

・ウクライナは 1991 年にソ連から独立した国で、周りはいろいろな国に囲まれている。
・夏は長くて、冬が短く穏やか気候である。
・国旗　青色―空　黄色―小麦を表していて、愛国心や文化を伝えることを大切にしている。

ここからそれぞれのクラスで決めた質問をしました。（いくつか紹介します）

Q戦争中はどこにいたのですか。どうやって避難したのですか。
Aシェルターの中にいて、二日後ポーランドに歩いて避難し、夫のいる日本にきました。
Qオルガさんは日本に来てどう思いましたか？
Aとても安全だと感じた。日本人はやさしくて助け合う気持ちが嬉しい。
Q戦争で一番こわかったことは？A多くの人が殺されること、21 世紀に戦争が起こっていること、日常生活を完全に変えてしまったこと
<u>Q日本や他の国々にしてほしいこと、支援してほしいこと。　A武器を提供してほしい。</u>
<u>Q私たちができることは？　A今起きていることをみんなで話し合ってほしい。情報を発信してほしい。</u>

上の２つの質問はどちらの学年からも出されました。特に武器を提供してほしいというのは私たち教師にとっても意外な答えでしたが、今のオルガさんにとっての切実な思いだと感じました。そして、今起こっている戦争について、自分はどう考えるのかを話し合い、どうすればよいか考えなければならないのだと思いました。子どもたちから「助けたい、かわいそう」「募金をする」「自分と同じくらいの年齢なのに友達と離れるのはさみしい。」といった感想が出ました。オルガさんには小学校６年生のディーマ君というお子さんがいて、日本の学校に通っていること、夜でもオンラインで離ればなれになっている友達と一緒に授業を受けていることも知りました。